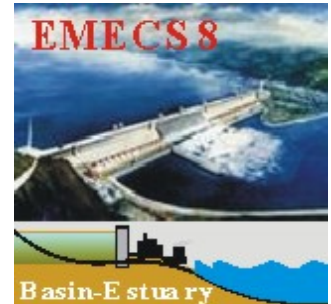


第 8 回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS 8)



International EMECS Center



会議テーマ：河川集水域と河口域の調和 (Harmonizing River Catchment and Estuary)

開催日程：2008年10月27日～30日

開催場所：中国・上海市

上海光大会展中心国際大酒店 (上海エバーブライト・コンベンション&エキシビジョンセンター国際ホテル <http://www.ebhotel.com>)

(但し、閉会式及びさよならパーティは華東師範大学で開催)

開催趣旨：世界各地には閉鎖性海域が存在し、塩水と淡水との微妙な交換が行われている。北海、地中海、バルト海、チェサピーク湾、タイ湾、渤海、瀬戸内海などがその例である。閉鎖性海域は、古来その風景の美しさと豊かな漁業資源を有していたが、汚染物質が溜まりやすい特性のため、その水質を保全・改善することが困難である。このため、保全・創造に関する世界の情報を交換しようと、世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS 会議) が 1990 年に日本国・神戸で開催された。その後、世界各地で 2～3 年毎に開催され、EMECS 会議は、科学者、政策立案者、産業界、市民等が集う国際会議として認知されるようになった。

第 8 回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS 8) は、アジア経済の急成長が河川集水域と河口域との関係を変化させていることを鑑み、「河川集水域と河口域との調和」というテーマで開催する。そして、自然科学者、社会科学者、行政官、市民、学生を含む全ての参加者で意見交換を行い、いかにして環境リスクを最小限にするかの検討を行う。

主要トピック：

①地球温暖化の下での環境脆弱性

河口域の脆弱性と環境政策、沿岸域の都市化—都市河川の変化と回復
有害物質評価—10年・100年スケール、統合的な河川の管理

②集水域と沿岸域の統合管理

水質管理、総量規制、湖沼の環境と対策、統合沿岸管理と将来展望

③地形変化：集水域から沿岸海域へ

大河川の河口海域への流入、水文学・地球化学・生物学的プロセス、アジアのメガデルタ—堆積物の移動、河川のパターンと集水域の反応

④新しいアプローチ

リモートセンシングと GIS の応用、モニタリングとモデリング、学際的な手法・プロセス

⑤社会的責任と意識向上

教育と市民参画、学生の参加

主催：華東師範大学、中国環境科学研究所、国際エメックスセンター
後援：中国国家自然科学基金委員会、上海科学技術委員会、国家環境保護部、国家海洋局、
長江水利委員会、中国科学院
協力：アモイ大学、中国海洋大学、南開大学、中国気象局国立気候センター、上海市環境局、
上海市海洋局、WWF 上海 他

会議運営：

○会長等

名誉会長：陳宜瑜・中国国家自然科学基金委員会主任（総裁）

会長：俞立中・華東師範大学学長

副会長：孟 偉・中国環境科学研究所院長

副会長：茅陽一・国際エメックスセンター会長／地球環境産業技術研究機構副理事長

○アドバイザー委員会

熊本信夫・国際エメックスセンター・科学政策委員会委員長／北海学園大学教授、その他中国科学院等の院士（9名）

○国際組織委員会

委員長：ウェインベル・ワシントンカレッジ環境社会センター上席講師 [米国]

委員：15名（PEMSEA、UNEP-MAP、OECD、World Bank 等の者を含む）

○ローカル組織委員会

委員長：王小明・華東師範大学副学長

副委員長：王業耀・中国環境科学院副院長

委員：13名

○プログラム委員会

委員長：渡辺正孝・慶応大学教授

委員：李行偉・香港大学副学長、李熙一・韓国環境研究院主席研究院、

柳哲雄・九州大学教授、エルダール・オーザン・MEDCOAST 会長

呉婕贇・中国環境科学院プロジェクトマネジャー、

徐開欽・国立環境研究所主任研究員、陳中原・華東師範大学教授

○現地事務局

事務局長：陳中原・華東師範大学教授

出版：会議終了後、プロシーディングスを出版するとともに、いくつかの学会誌で特集号を組む。

フィールドトリップ：会議前および会議後に三峡ダム、崇明島等への旅行ツアーを実施。

※日本からの参加者向けには、別途国内旅行社と提携し、EMEC88 への参加と合わせた安価なツアーを開催する。

言語：英語（部分的に日本語の同時通訳を予定）

参加料：大人（2008年3月15日まで）250米ドル／人

〃（2008年3月16日以降）300米ドル／人

学生（2008年3月15日まで）50米ドル／人

〃（2008年3月16日以降）70米ドル／人

家族同伴（2008年3月15日まで）150米ドル／人

〃（2008年3月16日以降）200米ドル／人

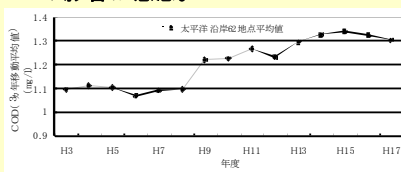
日 程：

年月日	内 容 (調整中)
2008/10/27(月)	<p>開会式</p> <p>開会挨拶：陳 宜瑜・EMECS 8 名誉会長 茅 陽一・EMECS 8 副会長</p> <p>歓迎挨拶：呉 曉青・国家環境保護部副部長 俞 立中・EMECS 8 副会長</p> <p>記念挨拶：井戸敏三・国際エメックスセンター理事長</p> <p>基調講演</p> <p>中国の研究者 (検討中)</p> <p>フランク・オールドフィールド (英国)</p> <p>ビリアナ・チチン・サイン (米国、デラウェア大学教授)</p> <p>全体セッション</p> <p>リージョナル・シー (Regional seas) というテーマで日中韓等の研究者・行政官を検討中。</p> <p>歓迎レセプション</p>
10/28(火)	<p>セッション (口頭発表)</p> <p>現在のところ次の7つのセッションについてコンビーナー等を定め、発表募集を行っている。</p> <p>①地球温暖化の下での集水域・沿岸域の環境脆弱性</p> <p>②統合沿岸管理－生態的・社会的リスク－政策</p> <p>③大河川ダイアログ－水質総量規制と管理</p> <p>④生態系の健康</p> <p>⑤地域協同のための制度モデル</p> <p>⑥里海などのニューアプローチ</p> <p>⑦ポスターセッション</p> <p>特別セッション</p> <p>①IGCP475-APN セッション</p> <p>②ビジネス・技術のイベント</p>
10/29(水)	同上
10/30(木)	<p>同上</p> <p>閉会セッション</p> <p>閉会挨拶：孟 偉・EMECS 8 副会長 (中国環境科学研究院院長)</p> <p>まとめ : 渡辺正孝・EMECS 8 プログラム委員会委員長</p> <p>地元挨拶：陳 中原・EMECS 8 事務局長</p> <p>王 小明・EMECS 8 ローカル組織委員会委員長</p> <p>王 業耀・EMECS 8 ローカル組織委員会副委員長</p> <p>ベストポスター賞：松田治・広島大学名誉教授</p> <p>EMECS 宣言：ウェイン・ベル・EMECS 8 国際組織委員会委員長、学生代表</p> <p>次期開催地代表挨拶：未定</p> <p>閉会挨拶：熊本信夫・科学政策委員会委員長</p> <p>さよならパーティ</p>

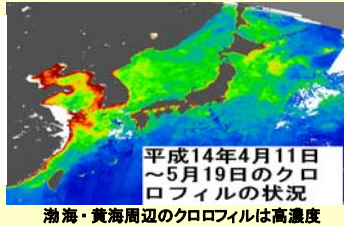
東アジア諸国における水質総量規制制度導入支援

○東アジア諸国の課題

- ・急激な経済発展の過程で大量の汚濁負荷が発生。
- ・水質総量規制制度の導入にあたり必要な制度的知見が不足しているが、関係者の理解も乏しい。
- 今後、海外の閉鎖性海域の富栄養化が深刻化し、我が国の海域環境への影響が懸念。



太平洋沿岸のCOD濃度は上昇



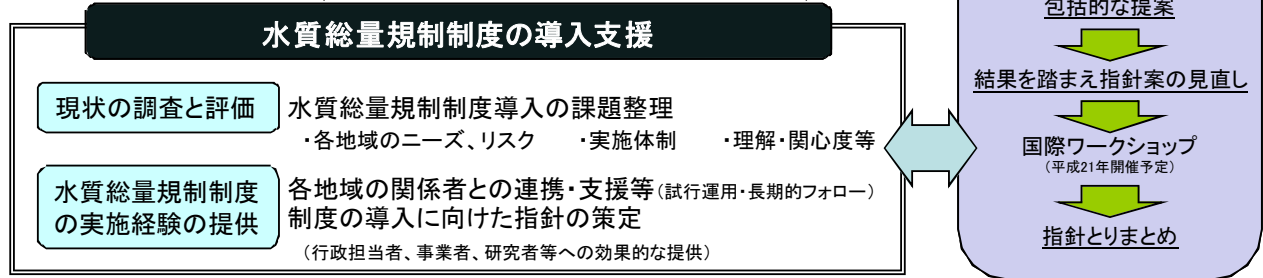
渤海・黄海周辺のクロロフィルは高濃度

○日中共同宣言 (平成19年4月)

渤海、黄海区域等重要な水域における水質汚濁防止についての協力の重点的な展開で一致

○海洋基本計画 (平成20年3月閣議決定)

今後5年間に政府が総合的かつ計画的に講ずべき海洋環境に関する国際協力施策として、我が国が有する閉鎖性海域対策に係る経験や制度の海外への導入推進を位置付け



東アジア諸国の富栄養化問題の改善に貢献することで...

★日本近海の水質の保全、改善

★環境立国としての日本のプレゼンス向上

...に資することが期待される。

エメックス8 (第8回世界閉鎖性海域環境保全会議) について

テーマ 河川集水域と河口域の調和

(Harmonizing River Catchment and Estuary)

日程 2008年10月27日～30日(予定)

場所 中国・上海市

趣旨

アジア経済の急成長が河川集水域と河口域との関係を変化させていることを鑑み、「河川集水域と河口域の調和」というテーマで開催する。そして、自然科学者、社会科学者、行政官、市民、学生を含む全ての参加者で意見交換を行い、いかにして環境リスクを最小限にするかの検討を行う。

主要トピック

地球温暖化の下での環境脆弱性、集水域と沿岸域の統合管理、地形変化:集水域から沿岸海域へ、新しいアプローチ、社会的責任と意識(向上)

連絡先

(財)国際エメックスセンター

TEL: 078-252-0234 / FAX: 078-252-0404

E-Mail: secret@emecs.or.jp

